

ふるさとの歴史を楽しもう

かよつと寄り道 ゆかりの埋蔵文化財

①秋山太郎光朝供養の経筒及び付属品



県指定文化財 伝 秋山経塚出土

秋山光朝館跡とみられる熊野神社付近で、江戸時代に発見されたものと伝わる。光朝の悲運の最期をうけ、その弟光経（経光ともいう）が一族の安寧を祈って埋納したものとみられる。

出土したのは建久8年（1197）銘の鋳銅製経筒2点、銅板製外筒1点、和鏡1点、刀身3点、常滑産の陶製甕の計8点

②雁又鏃



弓矢の鏃は目的によりその形が違い、雁又鏃は二股のやじりで武芸で用いられる弓矢である。

中世武士団の特徴を示す資料といえ、市内ではこれまで5点出土されている。まさに武士の活動を裏付ける出土資料といえる。

左:寺部村附第6遺跡(寺部)、
右:一の出し遺跡(小笠原)

コラム Column

加賀美から始まる礼法の歩み



小笠原といえば、小笠原流礼法…小笠原流鎧馬…小笠原諸島…などなど、日本中の人々が思いつくことでしょう。

実は、これらはみな南アルプス市小笠原と関係があります。また、南アルプス市加賀美、秋山、小笠原、この3箇所の地域もまたそれぞれ深い関わりがあるのです。

平安時代末、貴族の社会は終りを迎え、源氏と平家の武家の2大勢力の時代を経て、源氏による鎌倉幕府の時代が幕を開きます。

関東武士団の中で最も実力者たちが集まっているのが甲斐の國の源氏一族「甲斐源氏」と言われ、またその中に最も成功し、後の世に名を残す一族がここ南アルプス市を舞台に活躍していたのです。

加賀美を本拠地とした加賀美遠光を父親として、長男光朝は秋山を本拠地としたので秋山光朝、次男長清は小笠原を本拠地としたので小笠原長清と名乗ります。

二人とも甲斐源氏の中でトップクラスの出世頭でしたが、光朝は平家惣領家の娘である妻と、源氏の狭間で苦しみ悲劇の最期を迎えます。父遠光は弓術の名手で、鳴弦の術で天皇家を厄難から救ったという逸話を残しています。次男長清もまた父の技術を受け継いで弓馬術に秀で、源頼朝の信頼を得て流鏑馬の作法を制定します。室町時代以降も子孫たちは代々將軍家の師範や大名となり、その伝統はやがて小笠原流礼法・小笠原流鎧馬として現在でも全国に知られることとなるのです。

平成23年度史跡等及び埋蔵文化財公開活用補助事業
南アルプス市教育委員会 文化財課

☎055-282-7269

平安時代から鎌倉時代にかけてこの地を舞台に活躍し、全国へと羽ばたいた甲斐源氏の一族。
市内では古代～中世の遺跡も多数調査され、それらは一族の活躍を彷彿させます。

③新居道下遺跡(現甲西バイパス・中部横断道)

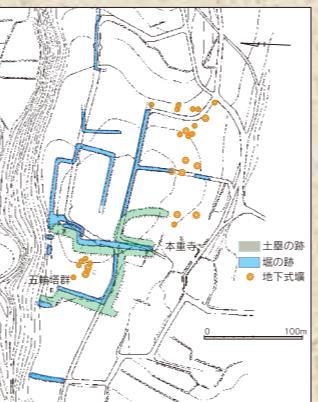


腰帶具(平安時代 石製のベルト飾り)

古墳時代後期のムラの跡が発見された。また弥生時代～古墳時代前期の溝跡なども発見されており、弥生時代以降、連綿と人々が暮らしていたことがわかる。



④椿城跡(農地寺院)



④椿城跡(農地寺院)

またの名を上野城とも呼ばれる。農道整備時の発掘調査により中世の溝跡が発見された。また、地中レーダー探査により溝や土塁で区切られたいくつもの空間や、多数の地下式坑が築かれていたことが分かった。地下式坑は時折陥没したため、古くより地域では地下道があると語り継がれている。

⑤油田遺跡(現甲西バイパス・中部横断道)

平成5・6年に発掘調査を実施。

弥生時代中期の地震の痕跡や古墳時代後期の祭祀跡、平安時代の水田跡など、弥生時代から連綿と生活が営まれていたことがわかる。

⑥宮沢中村遺跡(現甲西バイパス・中部横断道)

平成6・7年に発掘調査を実施。

鎌倉時代の水田を守るために築かれた護岸用の網代が発見された。洪水の土砂で埋まりながらもそのつど復旧し、水田やムラを守り続けてきた人々の逞しさを知ることができます。

●百々・上八田遺跡(現甲西バイパス・中部横断道)

平安時代から中世の集落跡。調査では80個体を超えるウマ・ウシの骨が出土し、「八田牧」の存在を彷彿させ、ウマの存在が甲斐源氏活躍の素地を物語っている。



●中野城(「歴史に触れる散歩道」として整備)
散歩道の入り口にある説明板

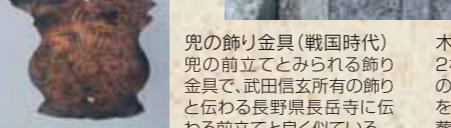
⑦二本柳遺跡(現甲西バイパス・中部横断道、現農道)



中世の水田跡とともに溝によって区画された戦国時代の寺院跡が発見された。加賀美遠光の館跡とされる法善寺の塔頭「福寿院」の跡で、16世紀を中心とした木棺墓などが発見されている。



木棺(戦国時代 左上・左下とも)
木棺墓の板や呪符木簡には梵字や真言密教の偈文(げぶみ)が墨書きされ、中世の入棺作法にのっとった葬送儀礼を知る上で、全国的にも貴重なものといえる。



兜の飾り金具(戦国時代)
兜の前立てとみられる飾り金具で、武田信玄所有の飾りと伝わる長野県長岳寺に伝わる前立てと良く似ている。



木棺(戦国時代)
2枚重ねの土器の上に稻穂がのせられ、六道鏡、菩提樹の実を用いて作られた数珠、灰(火葬骨)が入れられていた。

⑧大師東丹保遺跡(現甲西バイパス・中部横断道)



漆塗りの椀
通常残りにくい木製品が大量に発見された。



平成5・6年に発掘調査が実施され、大量の木製品が発見された鎌倉時代のムラ跡。
今から約700年前の建物や水路、その周辺に広がる水田など当時のムラの様子がうかがえるとても貴重な調査例。

県指定文化財 網代
絵巻物によく描かれている建物の壁材。

●野牛島・西ノ久保遺跡(御勅使南工業団地)

平安時代後期の住居跡からは雁又鏃が発見された。また炭焼窯や、平安時代末期の礫で囲んだ墓坑からは和鏡が発見され、生産遺構や特殊な身分を示す遺物が特徴といえる。



和鏡
あまなりじょう
●雨鳴城(未整備)
山道の途中にある天満宮



Mなび



Mなび

立役者なんたよ。
だ。鎌倉幕府創立の
美遠光とその子の武供舞
台に活躍した加賀
市に秀でていったん
たちは弓や馬の
とおみづくん

甲斐源氏
ゆかりの史跡を歩く

vol.3

かいけんじ 甲斐源氏

●遠光●光朝●長清 活躍の舞台 ゆかりの史跡を歩く

